

# アメリカザリガニ繁殖阻止ツールの開発

NPO 法人シナイモツゴ郷の会 長谷川政智・久保田龍二・  
根元信一・高橋清孝

現在、アメリカザリガニの駆除が各地で行われており、トラップとしてはアナゴカゴ、カニ籠、網もんどりが一般に使われている。これらのトラップでは、内部に餌を入れて誘引するが、アメリカザリガニが餌に誘引されトラップに入るまで時間が必要となる。また、駆除圧を高めるためには、多くのトラップが必要となり、そのトラップの設置や回収には大きな労力が必要となる。駆除現場では少ない労力で多くのアメリカザリガニを捕獲することが求められている。シナイモツゴ郷の会では、効率的な捕獲方法と装置などツールの開発に取り組み、連続捕獲装置の小型化やプラスチック製の定置網、杉の枝葉を使ったしばづけの代わりとしてのり網を使った人工水草を考案した。

## 材料と方法

### 1-1 自動給餌器付小型連続捕獲装置

従来の連続捕獲装置を小型化し自動給餌器を収納する容器を小型化することで設置台を含め全体的に小型化することができた。

### 1-2 自動給餌機を使わない連続捕獲装置

市販のアナゴカゴを2つ組合せ片方に餌を入れたタッパーを収納し、もう一方を暗くすることで従来の自動給餌器付連続捕獲装置と同じ程度の個体数を捕獲する事ができた。20℃以上では餌が劣化するため、設置期間は一週間以内に限定される。

## 2 プラスチック製定置網

侵入個体を阻止・捕獲するため当初、市販の小型定置網を使用した。しかし、アメリカザリガニを好む小動物に網が壊されることが度々起こったことからプラスチック製の定置網を開発した。



侵入個体には稚ザリを抱いた雌個体も捕獲される。親から離れた稚ザリを逃がさないため、底には網目の小さなネットを取り付け

た。

### 3-1 杉の枝葉を使ったしばづけ

餌の誘引による捕獲法では、大型個体が優先して捕獲され、大型個体を減少させた後で小型個体が捕獲される。駆除当初から大型個体と小型個体を同時に駆除することで駆除効果を高められるだろう。特にトラップで捕獲しにくい小型個体が出現する時期に多くの小型個体を捕獲できた。

### 3-2 養殖のり用のり網を使った人工水草

のり網を使った人工水草による捕獲数は、杉の枝葉を使ったしばづけよりも平均捕獲数が多かった。劣化がほとんどなく2シーズンは使用できることも分かった。水を吸収し重くなるが入手のしやすさと劣化がほとんどないことから数を多く設置することで多くの個体を捕獲できることが期待される。また、数個体だが抱卵したアメリカザリガニも捕獲された。アメリカザリガニが減少したため池ではヤゴ類の隠れ場所となったりミヤケミズムシが産卵基質として利用していた。今後は水生昆虫類の復元にも利用できるのではないだろうか。



#### 4 巣穴掘り

駆除を行っているため池では、7月から10月中旬ごろまで巣穴を確認できる。水位が下がって底質が泥状の所に作られた巣穴は、掘りやすく深さもほとんどが腕を入れて一番深いところまで届く深さだ。雄雌がペアで入っていることもあれば、雌だけや雄だけのこともある。



#### 5 人工巣穴

長さ40～50cmの塩ビ管の一方を塞ぎ沈めておくだけのもの。通常は、1つの塩ビ管に1尾が入って捕獲される事が多い。産卵時期になると雌雄ペアや数は少ないが抱卵した雌も捕獲される。



抱卵個体数

	2018年	2019年
しばずけ・人工藻	3	5
人工巣穴	5	1